

ふるさと

の 187

誇り



博レポート

# 安養寺のお地藏さまと 十日市



木造地藏菩薩立像(安養寺)



※鼻とりとは・・・

馬の鼻の部分をついて、  
農耕馬をコントロールすること

甲府盆地に春を呼ぶ祭りとして知られる十日市。その歴史は古く、戦国時代の天文三年(一五三四)には、すでに開かれていたことが明らかにされています。その深い歴史から現在、年中行事としての十日市それ自体が、南アルプス市の文化財に指定されています。

十日市は毎年、十日市場にある安養寺のご本尊のお地藏さまを市の神様、市神(いちがみ)と仰ぎ、その門前で開かれてきました。また、このお地藏さまは農繁期に少年の姿に身を変えて田んぼを鋤く馬の鼻をとって村人の農作業を助けた「鼻採り地藏」の伝説をもち、やはり市の文化財に指定されています。

近年の調査の結果、このお地藏さまは、その姿かたちなどから、鎌倉時代に造られたものと推定され、通常は何度も塗り直されていることが多い表面の彩色なども、造られた当時のものが、そのまま残っていることがわかりました。専門家によれば、この少年のように美しいたずまいをみせるお地藏さまは、南アルプス市内にある仏像の中でも、トップクラスの美術的価値・歴史的価値を有するのみならず、山梨県下を見回しても有数の、貴重な文化財といえるのだそうです。また、このお地藏さまが納められた立派な厨子は、やはり近年の調査の結果、江戸時代初期の建築とされ、優れた歴史的価値を有することがわかりました。

調査など特別の場合を除き、このお地藏さまは通常は年に一度、十日市の間だけご開帳されてきました。そのため、みなさんがこの美しいお地藏さまにお会いするには、十日市を訪れる必要があります。しかしご存じのとおり、コロナ禍に見舞われて以降、今年も含め、もう



安養寺でのご開帳の様子。



十日市のにぎわい。



十日市の様子。値段交渉も風物詩でした。



専門家による近年(令和4年)の調査。写真左は厨子の調査、写真右は地藏像の調査。

三年連続で十日市は開催されていません。今は二月の十日、十一日に開かれている十日市ですが、地域にのこる記録によれば、元々は旧暦の一月十日、十一日、十四日の三日間と、七月十日、十二日、十四日の、年間六日間開催されてきました。一月、七月を通じて木工製品のほか、一月の十日市は、年の始めの用足しや春に向けての耕作の道具、七月の十日市は先祖を迎えるお盆の準備の道具が取引されました。そのため、一月の十日市はこの世の用事を叶えるため、七月の十日市はあの世の用事を叶えるために立てられたともいわれています。

いつの頃からか七月の十日市はなくなってしまうましたが、少なくとも四百八十年以上の安養寺のお地藏さまが造られた頃にまでさかのぼれば七百年以上続けられてきた十日市です。その間、南北朝の動乱や戦国の争い、明治維新、太平洋戦争など幾多の危機をくぐり抜け、連綿と続けられてきました。来年こそは、またこのにぎやかな市が開かれ、みなさんがお地藏さまにお参りできるよじになることを願ってやみません。

文/写真 文化財課